

主体的な子どもの動きと表現を引き出すための指導の工夫

～音楽を手掛かりに～

栗原知子

- I. 問題意識と研究目的
 - II. 学校体育における表現運動
 - III. 実践の概要
 - IV. 実践内容及び考察
 - V. まとめ
 - VI. 引用・参考文献
- <資料>

I. 問題意識と研究目的

表現運動は体育の一領域として指導要領にも明記されている運動である。しかし、教員からやり方が分かりづらい、どうしたらいいか分からない、という声が聞かれることが多く、運動会のダンスの振りを教えて終わりという学校も多いと聞く。筆者も長年、表現運動の指導法研究に取り組み、印刷物などで伝えてきたが、なかなか広まらない現状を残念に思っている。

しかし、本校の実際指導研究会などで、実際に子どもが動いている授業場面を見ることや、講習会などで教員自身が実際に動く体験を通すと、他の領域とは違う表現運動の学習の意味に納得する方も多いのである。

つまり、教員が指導を敬遠する理由として、

- ・表現運動はボールなど用具の操作が主ではなく、自分の体そのものをどう動かすかがポイントになるため、めざす動きが見極めにくいこと。
- ・教員自身に自分の体の動きを意識したり、工夫したり、また音楽などで気持ちよく体を動かし続けたりという経験が少ないこと。などが考えられている。

そこで、経験の少ない教員でも取り組みやすい手立てとして音楽に着目した。音楽により、体が自然に動く体験は多くの人が持っているだろう。しかし、授業で使うための曲選び、つまり子どもたちから自然な動きを引き出しやすい曲を探すのは、経験者でもなかなか難しい。このような現状を受け、同じ問題意識をもつ研究者（中村・笠井・長津）が、教員が使いやすく、子どもにも学びやすい曲の作成に取り組んだ。出来上がった曲「リズムウォームアップ～いろいろリズム」を授業で用い、子どもたちの動きの変化を見るために、共同研究として数回にわたり本校で実践授業を繰り返し、すでに成果をまとめている。ここではその実践を元に、その後の実践報告も加え、子どもから表現的動きを引き出す曲としてのさらなる可能性と課題をさぐる。

II. 学校体育における表現運動

1. 表現運動学習のもつ意味

運動やスポーツは、速さ、高さ、勝ち負けを競うことが目的と見られがちである。しかし、人間の身体にはもちろんそれ以上の可能性が隠されている。表現性もその一つである。実はそのことは、社会的にも意識されている。それは、オリンピックがスポーツの祭典であるだけでなく、文化の祭典であると捉えられ、関連した文化的事業も多く行われていることから明らかである。

しかし、学校教育ではどうであろうか。身体の表現性はまだ重要視されているとは考えにくい。前述したように、小学校の「表現運動」の実施状況としては運動会でのダンスの練習として、既成の動きを覚えさせるのみということも少なくない。その理由としては、教員の経験不足によるところが大きいと考えられる。

また、体で表現するためには、表現する内容を自分で見つけ、考えることが必要である。そのためには物事をよく見たり、想像力を働かせたり、自分なりの動きを見つけるために工夫したりする必要がある。教員にその意識がないと指導内容の理解不足や、子どもの動きを見取れないことになり、授業そのものを行わないことにもつながってしまう。

表現運動は、子どもが自由に体を使って表現すること、表現することを楽しむことが最終的に目指すところである。もちろんその方法はいろいろであるが、『「フォークダンス」の学習を通して地域や世界の文化に触れることも大切である』（p33カ表現運動系）とあるように、大きな意味で舞踊文化に触れる一端としての役割も担っている。

さらに、友達と関わりながら創り上げる体験や友達の動きを見て鑑賞する目を養い、その上で動きを通して自分を見つめ直すという活動は本校で取り組んでいる“てつがく”の学習—つまり、物事を深く見つめ、問いをもち自ら考える主体的学習そのもの—であると考えられる。

2. 体育の時間における学習をどう捉えるか

以前から『「からだの教育」の視野は（中略）体力テストやスポーツで評価される「スポーツするからだ」を超えて（中略）自らの動きや状態を「感じるからだ」、イメージや感情を伝え「表現するからだ」など、「生きるからだ」にむけられるべきであろう。（2006井谷）』という指摘もあるように、発想を変える必要が言われている。

しかし『体育の時間が、スポーツ活動中心でレジャー志向のスポーツの実施主体者を育成することに主眼を置くなら、学校外のスポーツ活動で代替えが可能であると批判され（2007友添・梅垣）』たと指摘されているにも関わらず、指導要領の今回の改訂（2017）では目標として「心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を（中略）育成することを目指す」（p17教科の目標）とされている。また「基本的な動きや技能を身に付けるようにする」（p21）の例として「走り幅跳びにおける走る、跳ぶ、着地するなど種目特有の基本的な技能は（中略）、多項目や日常生活の動きにつなげることができるような気付きを促すことにより、生涯にわたる豊かなスポーツライフの中で主体的に活用できる技能として習得される」とあるが、跳ぶことの表現性よりは、やはりスポーツが重視されている感が否めない。

一方、(p25ア体づくり運動系)は、「仲間と交流したりすることや、様々な基本的な体の動きを身に付けたり、体の動きを高めたりして、体力を高めるために」行うとされ、低・中学年では「体づくり運動以外の各領域において扱いにくい様々な基本的な体の動きを培う運動」を示すとして、低学年では(p39 (1)ア体ほぐしの運動遊び)「リズムに乗って、心が弾むような動作で運動遊びを行うこと」(p40イ多様な動きをつくる運動遊び)「立った姿勢からリズムよく跳びながら(中略)1回転などをする事」(p41)「両足または片足で、リズムや方向、高さを変えてはねること」などの例示があるが、残念ながら運動だけが取り上げられ、表現性への発展性が読み取れない。ただ、授業での扱い方の工夫で、体の表現性を育てる学習にしていく可能性を広げられると考えている。

3. 表現運動の授業に取り組む

長津は、表現運動の特徴を以下のように簡潔に分かりやすくまとめている。

- ・自分の体と想像力を駆使して、見たこと感じたことを体で表現する運動である。
- ・様々な曲想の音から感じ取った多様な見方、考え方を通して、豊かな感性が育つ運動である。
- ・自分の思いを伝えるとともに、相手の考えも認めながら、イメージを広げていく楽しさを味わうことができ、そこには仲間との関わりが欠かせない運動である。
- ・学習は、次のようなプロセスで展開される。

① まず、自分の思いや考えをもつ	主体的な学び
② その考えを相手（グループ）に伝える	対話的な学び
③ 相手の考えを受け止める	対話的な学び
④ 互いの考えをもとに、さらに良いものを創り出していく	深い学び

- ・今ある力を発揮しながら新しいものを生み出す力を培うことができる運動である。

また、表現運動の指導にあたっては『ダンスと他の種目が求める指導力の違いも浮き彫りになった。ダンス指導に求められる指導力は内容をわかってできるようにする力ではなく、子どもと一緒に内容を創っていく力である（2005佐分利）』という指摘のように、技術だけでなく教員こそが創造性を重視する姿勢を忘れてはならないのである。

これらの特徴を改めて確認し、表現運動の授業における音楽の効果を確かめる今回の実践に取り組んだ。

Ⅲ. 実践の概要

1. 使用曲について

(1) 作成の意図

前述したように、今回使用した曲は、中村・笠井・長津の監修によるオリジナル曲である。当初は「1, 2, 3, 4」と単調な準備運動への危機感から企画をはじめた。

単一なリズムで、主運動に関わらず同じ動きを行う準備運動の意味を問いなおしたのである。

そこで、曲作成の構成の工夫を次のように考えた。

- ① 8種類のリズムと曲想の異なる曲をつなぎ
- ② 1曲約6分間
- ③ 1曲を通して動ききること自然に心拍数を上げ、色々なリズムに合った動きに主体的に取り組めるようはたらきかける

また、準備運動として「いろいろな領域の授業の導入として」の活用も考えた。

一方、筆者は、「表現運動の課題として」も活用できると考え、今回、実践による検証を行ったのである。

(2) 曲の配列の工夫

- ・ 1曲目：明るく勢いのある「サンバ」。子どもたちが思わず弾み出すことを想定した。
- ・ 2曲目：上下に跳びはねていたであろう子どもたちが、今度はゆったりとした動きで左右に揺れる動きを想定して「ハワイアン」とした。
- ・ 3曲目：力強さをねらって「アフリカン」をもってきた。
- ・ 4曲目：前出の3曲とははっきりとリズムが違う3拍子の「ワルツ」とした。
アフリカンの大地を踏みしめる力強さから、優雅に輪舞するようなイメージへのコントラストが有効であると考えた。
- ・ 5曲目：どこか懐かしい「盆踊り風」な曲を配置した。子どもたちから自ずと手拍子が起こり、声をかけあうであろうことを想定した。
- ・ 6曲目：これまで特色あるリズムが根底に流れていたが、ここでは、拍がない不定期な音とし、子どもたちの感性を揺さぶることとした。
- ・ 7曲目：「ヒップホップ」。昨今子どもたちがテレビなどで見聞きし、あこがれがあるリズムを用意した。ちょっと背伸びした感覚も子どもたちを引き付けるのではないかと考えた。
- ・ 8曲目（最終曲）：「カントリー」で締め括ることとした。賑やかで、細かなことは気にせず走り回れるであろうことや、自然と多くの人で輪になって踊るであろうことを想定した。
長さも他の曲の2倍ほどにして、小さな輪から大きな輪へと発展できるゆとりを考え、達成感ももてることを目指した。（CDの解説より）

2. 授業実践概要

時期：平成29年10月～平成30年2月

対象：お茶の水女子大学附属小学校 第3学年1組（34名）2組（35名）3組（35名）

共同研究者：長津芳 中村なおみ

指導計画：曲を主運動の教材として用い、第1次はリズムの違いを、第2次ではイメージに合った動きを深める実践を行う。

第1次 リズムを感じ、イメージをもって動くことを主なねらいとした単元（4時間）

題材名「音を感じて表そう」

第2次 イメージを見つけ、イメージに合う動きを工夫することを主なねらいとした単元（4時間）

題材名「自分の動きで」

研究方法：

- ・3学級にほぼ同じ流れで実践し、それぞれの曲から子どもたちが見つけたイメージを記録する。
*イメージの一覧は〈資料〉を参照
- ・授業の様子を記録。共同研究者の参観により、子どもたちのリズムに合った動き、特徴的な動きなどを指導者とともに検証する。
- ・6分の曲に子どもたちがどう対応するか、動き続けることでの体の変化についても考察する。

実践前の対象児童の実態：

学習には、積極的に取り組む子が多い。反面、自分のペースで行動してしまう子もいる。音楽のリズムに乗って体を動かすことを楽しみ、音楽を流すと自由に踊ったり、友達の動きを真似たりすることも多い。気に入った音楽にのって飽きずに踊り続けたり、新しい動き方を工夫したりできる子もいる。これまで、様々な音楽をかけての学習を繰り返してきたからと思われる。現在、音楽をかけて自由に動くことに消極的な子はおらず、それぞれの動きを楽しみ、得意なスポーツをもつ子どもも、そのスポーツにとらわれることなく自由に動いている。逆に、他の領域では苦手意識がある子どもが積極的に動き、汗びっしょりで楽しそうに動いたり、色々な友達と工夫したりという姿が見られている。

IV. 実践内容及び考察

1. 学習指導計画

第1次：リズムを感じ、イメージをもって動くことを主なねらいとした単元

1	2	3	4
オリエンテーション 曲想の違いを感じ取って楽しむ	リズムを感じ、イメージを広げて動きを出し合う	イメージに合った動きを工夫する	動きを高め合い、簡単な発表会をする
ウォーミングアップ ・軽快な曲に乗って先生と一緒に楽しく動く			
<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を聞いて、自由に体を動かす。 ・仲間と一緒に動きを楽しむ。 ・リーダーの動きを真似する。 ・止まらずに動き続ける。 ・ポーズを工夫する ・音楽から浮かんだイメージを出し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に合わせて、次々動きを工夫する。 ○音楽のリズムをよく聴き、手拍子などで感じとる。 ・仲間と一緒に動きを楽しむ。リズムを意識し、リーダーの真似をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージをもって、動きを工夫する ○動きを高めるポイントを練習する。 ・仲間と一緒に動きを楽しむ。リーダーの真似をする。 ・好きな曲の中から思い浮かんだイメージに合った動きを工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで見つけたイメージに沿って、動きを工夫する。 ・動きを見せ合い、高め合う。 ・発表会をする。 ・音楽とイメージで、変わる動きを楽しむ。
クールダウン 振り返り			

第2次：イメージを見つけ、イメージに合う動きを工夫することを主なねらいとした単元

1	2	3	4
オリエンテーション 曲想の違いを感じ取って楽しむ	イメージを広げて 動きを出し合う	テーマを決めて、 動きを工夫する	動きを高め合い、 発表会をする
ウォーミングアップ ・軽快な曲に乗って先生と一緒に楽しく動く			
<ul style="list-style-type: none"> 音楽を聞いて、自由に体を動かす。 仲間と一緒に動きを楽しむ。 リーダーの動きを真似する。 止まらずに動き続ける。 ポーズを工夫する 音楽から浮かんだイメージを出し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽に合わせて、次々動きを工夫する。 ○イメージに合った動きのポイントを練習する。 一人ひとりがリーダーとなり、自分のイメージで動く。リーダーの真似をする。 好きな曲を選んで、イメージをもって動きを工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 好きな曲のイメージに合った動きを工夫する。 一人ひとりがリーダーとなり、テーマに沿った動きで楽しむ。リーダーの真似をする。 ○好きな曲の中から思い浮かんだテーマをグループで決め、動きを工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 選んだテーマに沿って、動きをさらに工夫する。 ペアグループと動きを見せ合い、高め合う。 発表会をする。イメージに合った動きの工夫をお互いに伝え合う。
クールダウン 振り返り			

2. 実践の記録

ここでは第1次の1・2時間目、第2次の3時間目の実践について詳細を報告・検討する。

(1) 第1次 第1時間目：平成29年10月26日（木）第2校時 対象：3年3組（35名）

a. 本時のねらい

- ・ 思い切り体を動かす
- ・ 音楽を聞いて自由に動き、イメージを見つける
- ・ 友達の動きを受け入れ、やってみる

b. 本時の展開

主な学習活動	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ・ ウォーミングアップ ・ 音楽を聞いて自由に動いてみる 「音を感じて表そう ～どンドン見つけてすぐ動こう」 ・ 自分で動きを見つけたり、友達の真似をしたりする ・ それぞれの曲で見つけたイメージを書く ・ 次時の予定を知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 思い切り動ける場を作る ・ 教師と一緒に、安心して動けるように ・ 体をしっかり使えるように声をかける ・ 本時のねらいを動きながらつかませる ・ 曲が変わるときに動きを止めて、メリハリをつけられるようにする ・ 子どもの様子を見ながら、曲の特徴をつかめるよう言葉をかける ・ イメージを書くカードの用意

c. 授業記録

- ・ 子どもたちは、音楽が流れるとすぐに体を動かし始めた。

- ・ 1 曲目がサンバ系の曲で、中学年の子どもには跳んだり走ったりしやすいように感じられた。
- ・ 2 曲目のハワイアンでは、波やフラダンスのようなゆっくりした動きが出てきた。
- ・ 3 曲目のジャングルをイメージする曲では、4つ足で走り回るような動き。
- ・ 4 曲目、3拍子の曲では友達と一緒にぐるぐる回る動きを楽しむ様子が見られた。
- ・ 5 曲目では、盆踊りや阿波踊りのように、あちこちに移動しながら動く子が多く、手拍子も入れたりしてイメージを表していた。



メリーゴーラウンドをイメージして回る



日本的な曲では腰を低くする動きの工夫が見られる



大きく弾む動きも出てくる



- ・ 6 曲目はリズムがないことで逆に自由に動くことを工夫していた。
- ・ 7 曲目は人気で、ブレイクダンスのような動きや、かっこいいポーズを始める子もいて、もっと続けたいという声もあった。



床を使った動きの工夫



ポーズを決める



友達と感じあったポーズ

- ・ 8 曲目、最後の曲では、みんなで手をつないで輪を作り、一体感も作りながら曲全体のまとまりを作れるようにしてあり、続けて動ききると子どもたちは汗びっしょりで、満足感も感じていた。
 - ・ その後、一人一人が、8曲それぞれのイメージを書いて、本時は終了。
- d. 授業後の省察
- ・ 共同研究者から、子どもたちがリズムを感じきれていないのでないか、という指摘を受けた。そこで、次時では、教師とリズムを意識する練習の時間を入れこむことにした。

(2) 第1次 第2時間目：平成29年10月28日（土）第2校時（公開授業）対象：3年3組（35名）

a. 本時のねらい

- ・ 思い切り体を動かす
- ・ 音楽のリズムを感じ、動きを工夫する
- ・ 友達の動きを受け入れ、やってみる

b. 本時の展開

主な学習活動	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ウォーミングアップ 今までの動きを復習する 本時の課題を動きにする 「音を感じて表そう」 自分で動きを見つれたり、友達の真似をしたりする 友達とお気に入りのイメージや動きを見つけ、一緒に工夫する お互いの動きを見合う 	<ul style="list-style-type: none"> 思い切り動ける場を作る 教師と一緒に、安心して動けるように 体をしっかり使えるように声をかける 本時のねらいを短く動きでつかませる 子どもの様子を見ながら、動きの工夫につながるよう言葉をかける

c. 授業記録

- ウォーミングアップはみんなで一緒に踊れる大好きなダンスで。その中で、ジャンプやねじる動きなど体の耕しも入れ込んでいる。
- 本時の課題を確認する。前時に子どもたちが書いたイメージを曲ごとにまとめて、参考にできるように掲示した。



思い切りジャンプし、体を精一杯使う



ねらいとイメージを分かりやすく伝える工夫



お互いのイメージを確かめあう

- 前時を思い出ししながら、子どもたちと8種類の曲を続けて動いた後に、前時の反省を受け、休憩も兼ねてリズムを意識する手拍子の学習を入れた。手拍子ではリズムの差が表せるが、実際に動き始めると、子どもたちはリズムを意識して動くというより、イメージを持つことで、リズムを利用しながら律動的に動くことで、音楽を生かし自分なりの動きを工夫していることが見えてきた。
- リズム練習の後、8曲を繰り返して練習した。リズムを意識しようとする、グループ同士の動きが似てしまうこともあったが、繰り返し練習することで、他のグループの動きを感じながら違う動きも工夫するようになってきた。



関わりながら動きを工夫



グループの動きが似てしまう場面も



手拍子などでリズムを感じて動く

- まとめとして、グループでお気に入りの曲を2つ選び、次々発表した。見ているグループも手拍子やリズムをとって応援するようにした。他のグループの動きを面白そうに見ている子が多かった。



グループで動きが変わっていく



黄色グループが発表。しっかり見ることも大事に

- d. 授業後の省察 協議会参観者の意見より(記録:新潟県三条市立酒井中央小学校 佐野裕昭先生)
- ・教師の教える場面をもっと入れてもよいのではないかという意見が多かった。表現もリズムダンスもイメージがなければ、なりきったり、音楽にのって動いたりすることはできない。
 - ・3曲目・6曲目などリズムがとりづらい曲は、表現的になりやすいと感じた。
 - ・子供達から見れば、これが表現、これがリズムという括りはないと思った。埼玉県公立教員だが、知識と技能の順番は、どちらが先なのかということはないという指導をいただいた。授業を参観する限り、表現とリズムの観点は子供達からすれば違和感はなかったと思う。むしろ境界が曖昧だったからどちらの領域にも出入りができ、引き出しが増えたと思う。
 - ・難しいからどのようにやるのだろうという探求の楽しさも子供達の姿から受け取れた。何より子供達が本当に楽しそうで笑顔だったのを見ると、表現とリズムダンスの融合もよいと思う。
 - ・曲想やテンポがゆっくりになったり、リズムがとりにくくなったりする中でも、ちゃんと自分の考えた動きを表現できる子もいた。両方あってよかったと感じた。

○第1次の授業についてのまとめ

ここまでは使用した曲のリズムを感じて動く学習を行ってきた。「リズムを感じて動く」と簡単に言うが、リズムをどうとらえるか、それをどう動きにするかは、中々奥深く難しいことが再認識された。

子どもたちは4拍子などのはっきりしたリズムを好み、アクセントをつけてみたり、走ったり跳んだり楽しんで見られていた。ただ、それだけでは動きが単調になったり、曲が変わっても動きが変わらなかつたりという場面もみられた。逆に子どもにとっては動きにくい3拍子など、普段触れることの少ないリズムでも動いてみるきっかけとなった。

リズムを感じさせるため、手拍子で違いを強調する活動も試したが、体全部を使って動き始めると細かいリズムはあまり気にせず動く子どもが多かった。リズムに乗って動く学習でも、イメージがあった方が動きやすいという報告もあるが、初めてこの曲を聞く参観者からも、表現とリズムの境界が曖昧なところが良さとしてあげられている。8種類の曲、6分という長さも子どもたちが楽しそうに動き続けていたことから肯定的に捉えられていて、その有効性も確かめられたと捉えている。

(3) 第2次 第3時間目：平成30年2月23日(金)第2校時(教育実際指導研究会)

対象：3年2組(35名)

- a. 本時のねらい
- ・たくさん体を動かして楽しむ。
 - ・イメージをもち、それに合った動きを工夫する。
- b. 本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1. ウォームアップ ～リズムを感じて ・リズムに乗って、楽しく体を動かす。 2. どんなイメージ?どんな動き? ・イメージに合った動きを工夫する。 ・体を思い切り使う。 3. 振り返り	・思い切り体を動かして、体を暖める。 ・前時の活動を広げるように、声かけをする。 ・友達と関わりながら、イメージにあった動きを工夫できるよう配慮する。 ・精一杯の動きを引き出す言葉かけ。 ・教師も一緒に、動きながら考えていけるようにする。

c. 授業記録

- ・子どもたちは今までの学習を生かして、安心してどんどん体を動かしていた。
- ・使用曲は、何回か学習して聞きなれていることもあり、曲のイメージをすぐにつかみ、即興的に動きにすることができるようになっている。また、一人ひとりがリーダーとして動きを見つける活動も、それぞれが意識して行うようになっているのが分かる。



みんなで楽しく



色々な友達と関わって、どんどん動く



掲示の工夫

- ・その中で、ここでは6曲目、リズムを崩した均等な拍のない曲を用いて、表現を引き出す学習につなげた。リズムに流されることが少なく、子どもたちが曲と向き合ってイメージやそれに合った動きを工夫しやすいからである。
- ・子どもたちはグループで動きながら話し合っ
てテーマを決め、工夫を重ねていた。



教師と一緒にイメージに合った動きの練習

- ・教師からは、はじめと終わりのポーズを意識させる声掛けや、場の使い方、大きく見えるポイントなど、グループごとに声掛けを行った。
- 子ども達が見つけたテーマは、以下の通りである。
(基本4人のグループ、9グループ)

- ①宇宙戦争
- ②流れ星（キラキラピカピカ星）フィギュアスケート
- ③オーロラ ④悪魔と天使 ⑤大きなオーロラ
- ⑥宇宙のこどう ⑦いん石のぶつかり合い
- ⑧オーロラ ⑨ウルトラマン&スターウォーズ



友達の動きをよく見る イメージが伝わるね

d. 授業後の省察 参観者の感想より

- ・すべての時間で子どもたちの笑顔が絶えなかった。体育は体を動かし、楽しむことが大切なことを再確認させられた。運動量も十分にあった。
- ・全員楽しそうに活発に表現していた。本時に至るまでの指導がポイントでは。
- ・振り返りで子どもの発言を「大きく、はっきり、思い切り」につなげて子どもの思考を整理し、子どもにかける言葉ですべて子どもを認め励ますことが大事と感じた。
- ・本物の音楽を使い、子どもがよくイメージしていた。教師自身が動く、子どもをほめる（面白い動きをしている子）がとても大切だと思った。
- ・子どもたちがとても表現力豊かで主体的に動いている姿が印象的。本校での取り組みにすぐに生かせる内容だった。
- ・音楽に合わせて、子どもたちが自分たちで動きを考えている姿がとてもよかった。授業の進め方がスムーズで今、何をやる時間かが分かりやすかった。

- ・はじめにタイプの違う曲をどんどん流して、子どもが思い思いの動きを表現していく時間が良かった。子どもが生き生きとダイナミックに動き、さらに様々な動きに音でドブプリつかって想像の世界に入り込んでいる姿が素敵だった。曲の選択、曲の長さがすばらしい。
- ・子どもたち全員が表現活動に取り組んでいてよかった。様々なジャンルの曲を用意することで、多様な動きが生まれていた。はじめのバラバラグループで活動することで、これまでの活動を共有できたと思う。観るだけでなくまねしてやってみることでそれぞれのイメージや動きの良さを子ども同士が共有できたのだと思う。本時の課題はグループごとにイメージをすり合わせみんなで創り上げていた。題名をつけることで観る側にも観点が生まれた。どの子も先生の関わりで楽しそうに活動しているのがよかった。
- ・子どもたちが自由に表現する姿に驚いた。自由な雰囲気の中にも、先生の指導によってしっかりグループごとに工夫があった。運動量の多さ、子どもたちがのびのびとしている様子、用意する音楽・教材などすぐに授業づくりに生かしたいと思った。
- ・イメージを大切にしているダンスの授業は、子どもたちにとってとても分かりやすいと思った。
- ・多様な動きが組み込まれていて参考になる活動がたくさんあった。音楽をベースに即興表現する活動は児童にとってやりやすく、自然体で表現を楽しめるものだった。
- ・表現運動の学習の進め方を模索中だったが、いろいろなジャンルの音楽に触れ、全身で表現する子どもたちの姿を見て「なるほど!」と思うところがあった。
- ・音楽の使い方や、話し合わせ方がよかった。
- ・3年生とは思えないほどのイメージの豊かさ、動きを引き出せた授業だった。児童の自由な発言を上手にまとめたり、前向きにとらえて型にしていく技量を感じた。up用の曲をイメージに結び付けていく使い方がよかった。

○第2次の授業についてのまとめ

イメージと動きをつなげることを主なねらいとした第2次の学習では、6曲目、均等なリズムを刻まない曲を子どもたちは好んだ。これは第1次の授業の時にも指摘があったこととつながる結果だった。W-upとして動く時よりも曲を限定することで、子どもたちがイメージを表せるよう動きを工夫したり、ポーズの姿勢を考えたりと関わりながら創造していく様子が見られていった。

また、授業を初めて見る参観者から、曲について肯定的な反応が多数あった。

- ・様々なジャンルの曲が、多様なイメージ、多様な動きを引き出している。
- ・違うタイプの曲で、子どもたちが次々に思い思いの表現をしていた。
- ・音楽をベースとする即興表現の学習は、子どもたちが自然体で表現を楽しめるもの。
- ・曲の選択、長さがすばらしい。

協議会のあとには、音楽についての問い合わせ（どこで入手できるのか、どういう使い方が有効か）もあり、関心の高さがうかがえた。表現的動きを子どもたちから引き出すための一つの要素として、音楽の重要性、さらに教員にとっての必要性の高さを表す内容であり、今回使用した曲が貢献する可能性の高さが感じられた。

3. 実践を振り返って

オリジナルで作成した音楽（8種類の曲）を使用した学習における子どもたちのイメージの発見と実際の動きの変化を観察してきた。

子どもたちはどの場面でも、音楽が聞こえると音楽に乗ってすぐ体を動かしていた。動くのを嫌がったり恥ずかしがったりする子はおらず、自分なりの動きを楽しんでいる様子がうかがえた。また、友達と関わりながら、音楽が流れていた6分間動き続けることもでき、それだけでも動きの種類が増やしていけると考えられた。

また、ただ動くだけではなく、子どもたちは音楽からたくさんのイメージを思い浮かべている。つまり何かをイメージしながら動くことを楽しんでいたと考えられる。参観者の観察からも「子どもたちが

楽しそう」「笑顔が絶えなかった」「主体的に動いていた」「グループでの関わり」など、主体的・対話的な学習の具体的な姿が捉えられている。自然にイメージにつなげられる音楽の効果を感じるとともに、表現的な動きの学習にもこの音楽が有効だと考えられた。

ただ、子どもたちは、曲の雰囲気やリズムの変化を感じているのがわかるが、それを動きの変化としてはっきり表すには難しさもあることが見えてきた。発達段階や学習経験を考慮して、教師がねらいを定めることが必要である。

さらに、音楽を流せば授業が成り立つわけではなく、教師の役割の重要性も参観から浮かび上がっている。「教師自身が動く」「子どもへの認め励ます声かけ」「グループへの指導」「自由な発言をまとめる」「ふり返りで子どもの思考を整理」深い学びへ導くための教師の役割を忘れてはならない。

子どもたちが主体的に取り組むきっかけとしての音楽の有効性が明らかになった。一方、主体的というのは子どもたちに任せっきりの放任ではない。教え込むのではなく、動きを引き出す、新しい動きに挑戦させる、教師が見通しをもって子どもを引き上げるという役割を改めて考える必要があると感じている。

V. ま と め

1. 成果

- ① 8種類の曲想の違う音楽が、子どもたちのイメージを多様に広げる効果があることがわかった。
- ② 8曲約6分踊りきると、心拍数が上がり、汗をかくなどウォーミングアップの効果と共に、子どもたちが達成感を味わっている姿が多く見られた。
- ③ 続けて踊っているうちに、弾む動き、揺れる動き、リズムを刻む動き、力強い動き、優しい動き、自由な動きなど、多様な動きを体感することができた。
- ④ 1つの曲の長さも子どもたちに適当であると考えられた。8種類でも多すぎず、子どもたちが楽しめていた。
- ⑤ リズムを感じ、律動的に体を動かす場面と表現性を重視する場面のどちらでも、これらの曲は有効に働くと考えられた。
- ⑥ 表現性を深めるには、リズムに引っ張られすぎない音楽の使用も考慮すべきであることが検証された。

2. 今後に向けて

- ① 曲の雰囲気やリズムの変化を感じているものの、それを動きの変化としてはっきり表わすには難しさがあると思われる。
- ② 表現運動の教材としての汎用性を高めるには、イメージと掛け合わせながら、それぞれの曲のポイントとなる動きを洗い出して整理することも必要である。
- ③ 子どもから表現的動きを引き出すため、教師が押さえるべき内容とグループへの働きかけをさらに明確にしたい。

<謝辞>

子どもたちの自由な表現を引き出すために作られた音楽を用い、その可能性について検証する実践に関わらせていただけたことに感謝している。今後も実践を重ねて、表現運動の指導経験の少ない教員にも気軽に取り組める教材として、この音楽が広く使われるようになることを願っている。

VI. 引用・参考文献

【注】

なお、本論は(2018)「これからの時代に求められる資質・能力を育成するための 体育科学習指導の

研究」第3節実践事例 実践事例6)「リズムウォームアップ～いろいろリズム」(CD)を用いた表現運動の授業(小学3年)～効果的な準備運動作成のために～ お茶の水女子大学附属小学校(栗原知子 中村なおみ 長津芳)と一部内容の重複があることをお断りしておきます。

【引用・参考文献】

- ・井谷恵子(2006.8)『『からだの教育』についてどうかんがえるべきかーアメリカのフィットネス教育に学んでー』体育科教育学研究第22巻第2号 pp53-54 日本体育科教育学会
- ・佐分利育代(2005.2)「小学校の体育を指導できる力の向上を目指した初等体育における授業内容(表現運動)ー教員養成課程における現状ー」体育科教育学研究第21巻第1号 p38 日本体育科教育学会
- ・小学校学習指導要領解説 体育編(2017) p17, 21, 25, 33, pp39-41 文部科学省
- ・全国ダンス・表現運動授業研究会(2015)「みんなでトライ!表現運動の授業」大修館書店
- ・全国ダンス・表現運動授業研究会(2011)「明日からトライ!ダンスの授業」大修館書店
- ・日本女子体育連盟編(2017)「女子体育」8/9月号 日本女子体育連盟
- ・友添秀則・梅垣明美(2007.3)「体育における人間形成論の課題」体育科教育学研究第23巻第1号 p5 日本体育科教育学会
- ・中村なおみ・笠井里津子・梅澤秋久・鈴木直樹・塩崎みづほ・奥村直子・山下裕司・栗原知子・野村徹・花坂未来・長津芳(2018)「これからの時代に求められる資質・能力を育成するための 体育科学習指導の研究」調査研究シリーズ No.77 日本教材文化研究財団
- ・成瀬麻美・寺山由美・永原隆(2018.12)「小学校体育授業における表現遊びの即興時に現れる3つの模倣の動き:分類の観点」体育学研究第63巻第2号 p770 日本体育学会
- ・松本千代栄(2010)「松本千代栄撰集」 明治図書

<資料>

8種類の曲を学習し、子どもたちが見つけたイメージは以下の通りである。授業の資料としては、学級毎のイメージを用いたが、重なるものも多かったので、まとめて一覧とした。

1	サンバ	カーニバル	パーティー	パレード	行進
		民族	外国の祭り	南国	南の島
		バカンス	ハワイ	グアム	メキシコ
		沖縄	旅行	夏	花火
		遊具	体操	ハムスター	マリオカート
		明るい	ゲームステーション		どんどん
		うきうきした感じ		元気に楽しく	シャララン
2	ハワイアン	ハワイ	フラダンス	海	波
		砂浜	島	人魚	夏
		くらげ	イルカ	気持ちいい	ゆるやか
		車レース	ビーチ	マリンスポーツ	
		自由	夕焼け	海の中	水中
		水の音	魚の音	サンゴ礁	こんぶの踊り
		海の近くの歌	砂浜で踊る	南の島のモンキー	
		夢の中	優雅	さわやか	ゆったり
		ゆらゆら	ふらら～	ふわあ～	まるやか
3	アフリカン	ジャングル	サバンナ	熱帯雨林	アフリカ

		太鼓	森の中	原住民	かり	
		サバイバル	ゴリラ	オラウータン	猿	
		へび	ライオンキング		カーニバル	
		鳥	動物	草原	火山	
		原始時代	タイムスリップ		忍者	
		川	山	自然	島の冒険	
		村のお祭り	民族の儀式	外国の祭り	インドの踊り	
		山のダンス	音楽会	動物が歌う	動物のダンス	
		鳥の鳴き声	ジャングルの歌		野獣	
		ウキウキパラダイス		ドンキーコング		
		4	ワルツ	バレエ	ダンス	ピアノ
メリーゴーラウンド				コーヒーカップ		
ディズニーランド				パーティー	イギリス	
パラダイス	象			踊り	体操	
ぐるぐる	わかめ			3拍子	おもちゃ	
おもちゃの踊り				おもちゃの行進		
パレード	みんなで仲良く楽しく踊る			きれいな人		
天空	空をとぶ			妖精	天使	
天使の羽	ふらふら～			ぶらぶら	リズム	
5	盆踊り風	まつり	おみこし	盆踊り	笛	
		大東京音頭	太鼓	神社	にぎやか	
		歌舞伎	出雲の阿国	江戸時代	パレード	
		タイムスリップ		夏祭り	秋祭り	
		阿波踊り	〇〇音頭	楽器	ゆっくり	
		おはやし	屋台	夏	和	
6	拍のない音	宇宙	流れ星	未来	隕石	
		スターウォーズ		ライトセーバー		
		ガラスが割れる		ブラックホール		
		火山	音楽	天使	宇宙の歌	
		タイムスリップ		ビッグバン	爆発	
		広がる世界	星空	星の踊り	はるかなる空	
		プラネタリウム		キラキラの星の中で		
		夢の中	夢の国	夢の音楽	雪	
		ランプの妖精	アラジン	すばらしい人が登場する		
		ランプの踊り	ピラミッド	ディズニーランド		
		ライオンの鳴き声		ベル	シンバル	
		決戦	戦い	敵が表れる	ロボット	
		スーパーマリオ		ゴールドマリオ		

		おばけ	ゾンビ	妖怪	ホラー
		怖い	ドンドン	船	
7	ヒップホップ	ラップ	ダンス	リズム	シング
		D J	ライブ	ロック	ダンスバトル
		ビートボックス		ロボット	植物
		ダンスパーティー		ヒップホップ	元気
		ドラム	ドンドン	トントン	お祭り
		獲物をさがす	ゲーム	ゲームセンター	
		機会	コカ・コーラ	はきはき	ミニオンズ
		ゾンビの村	昔のエジプト	韓国	中国
8	カントリー	エンディング	ドラマ	最後の歌	おわかれ
		拍手	パーティー	カーニバル	パレード
		コンサート	音楽会	なつかしい	ふるさと
		旅行	グアム	楽しい	激しい
		ステップダンス		盛り上げ	フィーバー
		ギター	ピアノ	ドラム	太鼓
		バイオリン	おもちゃ	アンパンマン	ミニオン
		スーパーマーケット		終わりがきた	みんなで踊る
		みんな仲良く	ダンスパーティー		パラダイス
		リズムに合わせて		陽気	愉快
		パフォーマンス		ショー	スキップ
		ステップ	シンバル	木琴の音	ギター
		海のお祭り	南の島の儀式	木から木へ	アニメの音
		メリーゴーランド		ポケモン	ルンルン
		なめらか	ティロティロ	くるくる	楽しい踊り

(解説)

- ・ 8曲それぞれの曲想は異なるが、子どもたちの受け止め方は様々である。その結果、異なる曲から、子どもたちが似たイメージを感じる事が、この表から読み取れる。
- ・ 8種類の曲を実際に体験することで、曲の違いを感じられる体になっていくと考えられる。そのためには即興的にイメージをつかみ、動きにする学習の積み重ねが大切である。
- ・ 一人ひとり違うイメージをお互いに見合ったり、グループで共有して動きにしたりすることで子どもたちの動きの幅が広がっていく。
- ・ 子どもたちから出てきたイメージを教師がまず否定せずに受け止めることが大切である。そこから自分なりの表現に向かわせることができるのである。
- ・ それぞれのイメージがどのような動きにつながるか、教師は実際に動いて教材研究しておく、深い学びにつなげることができるだろう。